

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やホールに理念を掲げ、職員で共有し意識を高めている。毎朝ミーティング後に理念を唱和し、支援する目標と意義を確認している。	開設時に管理者と職員で検討し、【共に生活できる家づくり】というホーム独自の理念を掲げています。ホームの玄関及び共有スペースに理念を掲示するとともに、毎朝、理念を唱和する機会を設け、理念の実践ができるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の防災訓練やクリーン活動等に、地域の一員として積極的に参加している。また、避難訓練の会場として事業所を開放し交流を図っている。広報誌を配布し行事等の参加を呼びかけ、交流が図れている。	地域に事業所広報を配布したり、町内の避難訓練でも事業所を使用して頂いています。また、地域の防災訓練やクリーン活動に参加したり、中学生の体験学習も受け入れるなど、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体の診療所や支援センター、訪問看護ステーション、併設の小規模多機能型居宅介護と共に、地域の方からの福祉相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実態や取り組みを報告し、出席者からの意見や要望を事業所会議にて分析しサービス向上に繋げている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、地域住民代表、ご家族代表、ご利用者代表、市の担当者、地域包括支援センター職員等から出席してもらっています。参加者へ事業所の利用状況や活動状況などの報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の職員や地域包括支援センター職員に出席していただき、相談・意見をもらい連携を図っている。	市の担当者、地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、運営に関するアドバイスを頂いており、連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修や内部研修で身体拘束について学習や確認を行い、理解を深め日々の援助に活かしている。入職、異動職員にはその都度研修を実施している。	ユニットの玄関は2階にある為、階段からの転落のリスクを考え日中も施錠していますが、身体拘束を行わない方針のもと、法人でも身体拘束についての研修を年に1度は行い周知徹底するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修や内部研修に参加し理解を深め、虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。入職・異動職員にはその都度研修を実施している。	身体拘束研修と同じく、法人にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を実際に活用し、利用者の要望に応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の他、ホームでの生活についても丁寧に説明し、納得してもらう努力をし利用者や家族の立場に立った手続きにより、相互信頼関係を基盤としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見や要望を話していただけるような関係作りに努めている。家族が意見を言いやすいように外部機関窓口の設置の他、玄関に意見箱を設置している。	ご家族には運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、ご利用者に対して年2回満足度調査を行い、要望を確認し、実現できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員の提案や意見を聞く会議を開催している。また、代表者や管理者は月1回開催している部署会議を通じて提案や意見を運営に反映している。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の部署会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。また、状況に合わせて職員との個人面談も実施し、個人の要望や悩みを聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福祉関係資格取得に対しての手当て・賞与の支給、通信教育の費用補助など、やりがいのある職場環境と条件に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、法人研修や内部研修を開催し学ぶ機会を設けている。外部研修への参加が少ないため、参加していけるよう努めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会の研修や市の研修を通じて、他事業所と交流を持ち、各種研修や事例検討等によりサービスの質向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時、本人や家族の身上を把握すると共に、その思いや不安を受け止め納得のいく説明や事前見学を実施したりし、安心と信頼が得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の意向とホームに望む事等を引き出し、安心と信頼が得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が今必要とされるサービスを見極め、緊急性及び本人の背景を考慮し、他事業所と連携し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆったりとした環境の中、互いに寄り添い作業を一緒に行ったり共に生活し、行動や会話から学び認め合い感謝している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と寄り添うことを大切に、本人を支えていくための情報を共有し協力していただいている。家族を行事にお誘いし本人と家族が一緒に過ごす時間を大切にしている。	月に1度のホーム便りの送付もご利用者毎にコメントを添えて、ご家族にご利用者の近況を報告しています。ご家族にも受診の支援をお願いしたり、ホームの敬老会にもご家族に参加いただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が来られた際は、ゆっくり過していただけるよう支援している。時に電話をかけたり手紙を書いていただいている。行きつけの美容室に行ったりと支援している。	ご家族や知人に面会に来て頂いたり、年賀状のやりとりを続けたりと今までの関係継続支援に努めています。また、ご家族の協力も得て、行きつけの美容室を利用されたり、正月に自宅に戻られる方やお墓参りに出かけるご利用者もいらっしゃいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は情報の共有を行いながら、利用者同士の関係の把握に努めている。孤立しがちな利用者には、職員との関わりを通じて周囲とのコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や医療機関へ移られた方へ面会に行ったり、サービス終了後も関わりが必要と思われる利用者や家族には、その都度連絡や相談を受ける体制がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活を通じて個々の言動や表情等から思いや気持ちを推測すると共に、家族の希望や意向も聞きながら検討している。	ご利用者に対して年2回満足度調査を行い、要望を確認しているほか、日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者や家族、以前使われていたサービス事業所等から情報を得て把握に努めている。また、入居後も日々の関わりの中で情報の収集に努めている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。6ヶ月に1度の定期及びご利用者の状態の変化に合わせアセスメントを行い、情報の更新も行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日3回の申し送りや個人記録を詳細に残すことにより、細かい状態の変化も職員間で情報の共有が図られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から希望を聞き取り関係者と話し合い、その方に合った介護計画を作成している。また、状態変化に応じた柔軟な見直しも行っている。	介護計画の実施状況を日々確認しているほか、把握した情報を基に3ヶ月毎に評価、6ヶ月毎に総合評価、アセスメントの取り直し及びサービス担当者会議を行ない、介護計画の見直しを行っています。	調査時点で確認した介護計画について、認定日の入力漏れや期間の日付に誤りがある箇所もありましたので、ホーム内でチェックし、修正する体制を検討されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアの実施状況、気づきや工夫を記録に残し、その情報を共有しながら実践にあたっている。また、その記録を介護計画書の見直し時に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて法人機関、母体診療所と連携を密にし柔軟な支援、サービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の方々との会話の中で地域資源を把握し、生活の質が高めることができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望している医療機関で受診していただいている。また、日々の状態を伝えたり連絡を取り合っている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、往診も月2回来て頂いています。生協診療所以外でのご家族同行の受診の際には医師宛の経過報告書を用意したり、必要に応じて職員が同行して状態の説明等を行い、情報提供を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の診療所看護師との医療連携体制加算契約により、看護師が日常の健康管理や24時間体制で気軽に相談ができ支援していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は医療関係者と情報交換を行い、早期退院に向けた対応に努めている。また、その方の主治医へ状況を伝え、退院後の対応について相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族の意向を尊重し、家族や関係機関と対応方法を話し合い、その人らしい終末期が迎えられるよう情報を共有し支援している。	契約段階で管理者はホームの重度化した場合や看取りに関する指針を伝えており、終末期療養に関する意向調査も行っています。入居後も、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームのできることを伝え、主治医とも連携し支援しています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生・AED操作の講義及び実技を学び実践力を身につけている。また、適切に対応が行えるようフローチャートやマニュアルを各ユニットに設置し、発生時に備えている。	年に1度は法人でAEDの使用や心肺蘇生に関する研修を行っているほか、毎月の部署会議ではご利用者の病状・状態・注意点等の報告を行い、全職員に一人ひとりの状態を周知し、緊急時に備えています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、全職員が避難方法を身につけている。避難訓練には地域住民や町内会長からも参加していただき、協力が得られる体制である。	事業所にて、日中・夜間の火災や水害を想定した避難訓練や緊急連絡網を使用した訓練を行なっています。避難訓練には地域住民や町内会長にも参加して頂くほか、非常用の食品や水も確保されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した声掛けや対応が行えるよう職員は意識し、取り組んでいる。また内部研修を開催し意識向上、プライバシー保護に関する知識の再確認も行っている。	個人情報とプライバシー保護については法人で研修も行い職員に周知・徹底されています。また、広報への写真の掲載についても都度ご家族に確認するようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が自己決定できる場面作りに努め、意思表示が困難な方には、表情の読み取りや雰囲気キャッチしながら自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位、利用者が安全で暮らしやすい生活を基本に、利用者全体で一緒に行動するばかりではなく、個々の希望に沿った生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族から意向を聞きながら、その人らしい身だしなみができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせたメニューや祝い膳等を提供し、食事が楽しみなものになるよう努めている。また、職員と共に準備から片付けまで、安全に参加できる機会を提供している。	ご利用者にもお米研ぎや食事の盛り付けを行ってもらったり、食器拭きも手伝ってもらっています。また、季節に合わせたメニューを提供したり、ご利用者と一緒にレストランやラーメン屋に外出に出かける等の支援も行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食記録に残し、適切な量が確保できるよう情報を共有し、随時改善の必要性を考査している。母体診療所医師や管理栄養士に補助食品や食事形態について相談し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い必要に応じて見守り、介助を行っている。また、就寝前には義歯の洗浄を行っている。口腔状態によっては、訪問歯科診療を依頼し治療を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄サイクルをチェック表で把握し、トイレで排泄ができるよう声掛けや誘導を行っている。また、利用者の表情や仕草を見落とさないように、常時、心掛けている。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、パターンを把握し適時に誘導したり、一人ひとりのトイレサインを把握し見逃さないよう注意を払い、出来る限り失敗せずトイレで排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し水分摂取や食物繊維、乳製品を含む食品を使う他、その人にあった運動を働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆったりと入浴できるように時間や順番、体調や状況にも柔軟に対応している。また、風呂は一般浴槽と特殊浴槽があり、個々の状態によって使い分けている。	ホームには一般浴槽と特殊浴槽の2種類のお風呂があり、ご利用者の状態に合わせて支援できるようになっており、ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活パターンやその日の状態に合わせて、休息が取れるように支援している。また、室温や湿度にも気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の個人カルテに内服薬の説明書を綴り、いつでも確認ができる。薬の変更や追加の際は、申し送りや連絡ノート、個人記録で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで過してこられた生活の中での役割や習慣を大切に、ホームでの生活で可能なことは継続していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿い、少人数で外出したり、個別での外食を支援している。また、家族等の協力を得て、外出が行われている。	ご利用者の要望に合わせて買い物支援や外食支援を行ったり、季節に合わせてお花見などの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の能力に応じて、家族とも相談し、お金を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には季節の花を飾ったり、廊下の壁面には季節に応じた飾り付けがされ、心地よい共有空間を意識している。	共有スペースにはソファが置かれ、ご利用者がくつろぎながらテレビを見れる環境です。廊下にはご利用者のスナップ写真が掲示され、日々の活動が分かりやすくなっています。共有スペースには季節に合わせて雛人形やご利用者が作られた作品も置かれていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良いスペースにソファを配置して、気の合った入居者同士が話をしたり、畳コーナーで過ごすことができる。食事席も利用者が自然に座った席を自分の席として、その日の気分に変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に慣れ親しんだ物に囲まれ、ホームでの生活が送られるよう本人や家族に馴染みの物品の持ち込みを働きかけている。	居室には、使い慣れた家具や仏壇などを持ち込んでもらったり、ホームでの写真やご家族の写真を飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の状態に合わせ、追加で手摺りを設置している。また、安全な環境を目指し、その都度対応を検討し改善に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				